

移植後から幼穂形成期の水管理は、「保温効果」「雑草の抑制」「養水分の供給」などの生育・収量や品質に影響を与える重要な役割があります。水稻の生長点が土壌中にあり、「地温」と「水温」から影響を受けやすいので、生育初期は細やかな水管理が必要です。

田植え以降は、今年産米の品質・収量を大きく左右する重要な時期です。
田植え後の生育不良や、雑草の取りこぼしがあれば、営農指導担当者にご相談下さい!!

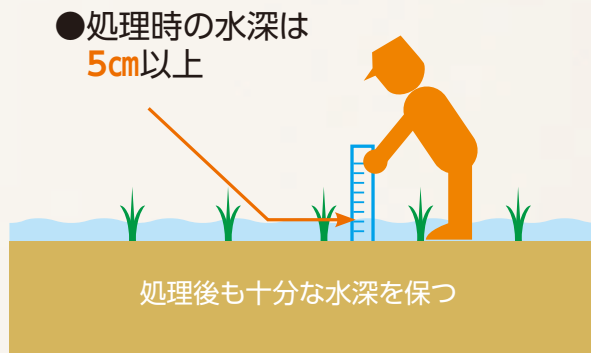
【水管理のイメージ】



田植え後の水管理

水稲

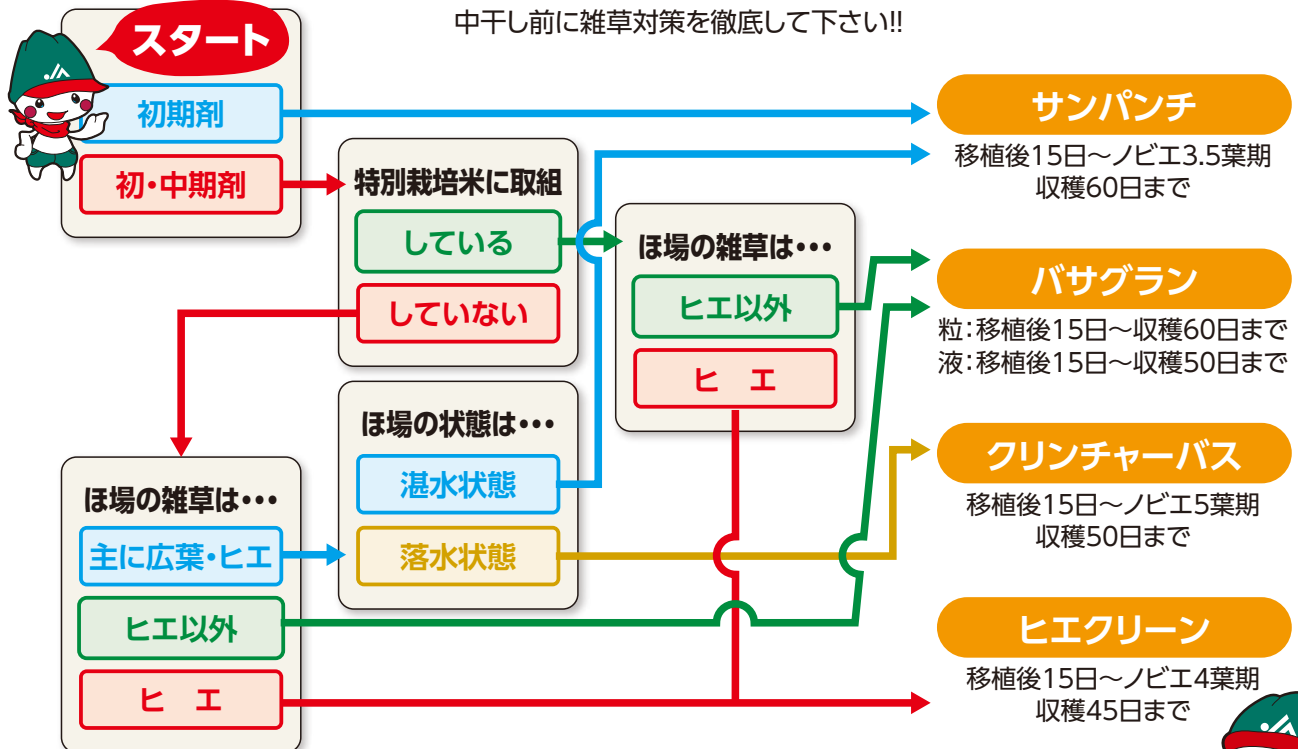
- 藻・浮草が発生していると、拡散が不十分となり効果が劣ることがありますので、使用時期の範囲内で早めに散布して下さい。
- 水口、水尻をしっかりと止めて、処理後は少なくとも7日間はそのまま湛水を保ち、落水・掛け流しはしないで下さい。
- 除草剤は土壌面に被膜を作り雑草の発芽を抑えるので、散布後は土壌面が現れないようにして下さい。



- 除草剤使用の注意点
 処理時の水深は5cm以上。特に、ジャンボ剤・フロアブル剤は必ず5～6cmの湛水状態を保つて下さい。

雑草を取りこぼした時の水田除草剤体系フロー図

中干し前に雑草対策を徹底して下さい!!



詳しくは栽培の手引きP23をご覧ください!!

